

キャロム社の歴史

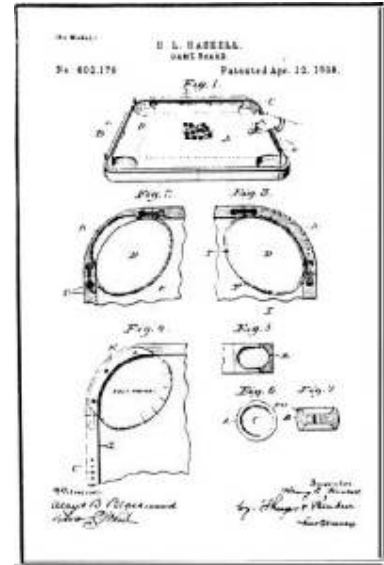
1890 年代

すべての始まり

19 世紀最後の四半期、日曜学校の教師だったヘンリー・ハスケルは、ビリヤード場の周辺にたむろする少年たちの数が増えていることを憂いていた。(皮肉なことに、後に当社はビリヤード台を製造することになる。)

発明心に富むハスケルは、少年たちの心に届くような健全で楽しいゲームが提供できないものか、そのことを集中して考えた。そしてすぐにハスケルは、アメリカ・キャロムボードの特許を取得して販売した。

それはハスケルが共同経営していたルディントン・ノベリティ・ワークス（ミシガン州ルディントン）で製造された。



1900 年代

企業合併

ルディントン・ノベリティ・ワークスは、イリノイ州ピオリアのアークリナ社と合併して、キャロム・アークリナ社が誕生。製造部門はルディントンに留まる（1901 年）。ゲームボードのディスプレイラックを発売（1903 年頃）。美しいビリヤード台とビリヤード用テーブルを製品の軸に、さまざまな種類の木製家具を製造。



1910 年代

キャロムの新社長

裕福な実業家の J. S. スターズが会社の株式を購入すると社長に就任。ハスケルが秘書を務めた。

キャロム社に社名変更（1914 年）。



1920 年代

大恐慌からの生還

大恐慌が始まる 1920 年代の後半まで、キャロム社は成長と繁栄を続けた。会社が存続できたのは、困難な時期でも多くの雇用を維持しようとするスターズの経営理念があったからに他ならない。



1930年代

“キャロムボーイ”

キャロムボーイが広告に初登場（1930年）。

キャロム・ベースボール・ゲームボード（スタイルBB）を発売（1937年）。

1938年にルー・フォンセカのルールが追加。現在ではコレクション価値の高いボードである。

キャロム社が業務用家具の製造分野に参入（1937年頃）。これはキャロム社にとって新分野で、適切な参入を図るため、多額の資金と多大な労力が費やされた。

だが、キャロム社にとっては負担が大きすぎ、1930年代後半までには破産寸前に陥る。

キャロム・インダストリーズに社名変更（1939年）。



1940年代

ヘンリー・ハスケル死去

ヘンリー・ハスケルが死去（1940年）。

ミルウォーキーのウィル・ロス社がキャロム・インダストリーズを買収。キャロム社への関心は医療用家具の分野に移行する（1941年頃）。

ノックホッケーを発売（1942年頃）。

第二次世界大戦中、キャロム・インダストリーズは、戦場で地図を広げるための大きな折りたたみ軍用テーブルを製造。



1950年代

シャンペイン・インダストリーズ社による買収

ミズーリ州セントルイスのシャンペイン・インダストリーズがキャロム・インダストリーズを買収（1951年）。

業務用家具の取り扱いが会社の大部分を占めていた。



1960年代

競争と訴訟

キャロム・インダストリーズの従業員3名が脱退し、キャロム・インダストリーズと直接競争するマーデル・マニュファクチャリングを設立（1960年）。

マーデルのキャロムのスペルは“R”を1つだけ使用。

両社はミシガン州ルディントンにあった。訴訟が続く。



マーデル・マニュファクチャリング によって、ゲームボードのコーナーにプラスチックが使用される（1961年）。これはロバート・エリクソンによって発明された。

アフィリエテッド・ホスピタル・プロダクツ社が、シャンペイン・インダストリーズを買収（1967年頃）。

キャロムゲーム部門がゲーム制作をペンシルバニア州レッドライオンに短期間だが移転。（1968年頃）。

1970年代

移転

キャロムゲーム部門が製造拠点をミシシッピ州サーディスへ移転（1972年）。

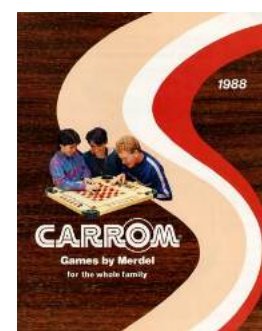
マーデル・マニュファクチャリングは、現在は消滅したキャロムゲーム部門の残りの資産を購入。キャロムの2つの”R”を使用できるようになる。すべての製造はルディントンで行われるようになる（1972年頃）。



1980年代

ライトニング・グループ

ライトニング・グループ（ペンシルベニア州ダンキャノン）が、マーデル・マニュファクチャリングを買収（1981年）。



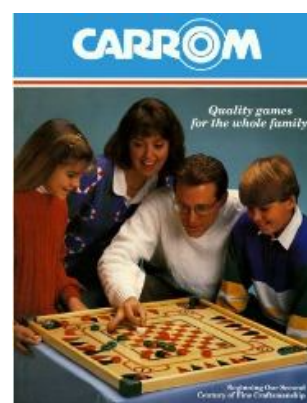
1990年代

ルディントンへ戻る

キャロム社がドルーク社を買収。製造事業をミシガン州グランドラピッズからルディントンへ移転。ドルークは質の高いチェス、クリベッジ、バックギャモン、その他のボードゲームでよく知られていた（1992年）。

社名がキャロム社に戻る（1994年）。

キャロム社は破産したレクリエーション・プロダクツの残りの資産を購入。成人用エアホッケー、フーズボール、ビリヤード台の製造をルディントンに移管。これにより、キャロム社にスポーツ部門が設立される（1996年）。



2010年代

子どものプラグを抜いて：家族を繋ごう

2014年、キャロム社は、「Unplug your Kids: Connect the Family」を主張し始める。これは、これから何年も続けて行きたい取り組みである。アメリカ全土の家庭に、テレビ、コンピューター、電話、モバイル機器の電源を切り、家族団欒のダイニングテーブルで、ゲームを数時間して過ごしてもらおうよう呼びかけている。毎週日曜日、家族がプラグを抜いて、ゲームをしながら、一緒に笑って、楽しい時間を過ごすことを奨励する運動を始めている。私たちは家族の時間ほど大切なものはないと信じているので、あなたもそれを望んでいると信じたい。だからこそ、あなたはキャロムを購入することに決めたのでしょうか。



<https://carrom.com/about/>

翻訳：石川 久